

自動運転社会を見据えた路車間通信に関する技術実証の実施について

2019年1月29日
関西電力株式会社
パナソニック株式会社
株式会社ゼロ・サム
株式会社トヨタIT開発センター

関西電力株式会社（以下、関西電力）、パナソニック株式会社（以下、パナソニック）、株式会社ゼロ・サム（以下、ゼロ・サム）、株式会社トヨタIT開発センター（以下、トヨタITC）の4社は、大津市の協力の下、自動運転社会を見据えた路車間通信に関する技術実証（以下、本実証）を2019年1月30日、31日の2日間で実施します。

本実証は、信号機がなく見通しの悪い交差点において、電柱に設置した情報通信機器を活用した路車間通信^{※1}による安全運転支援、更には将来の自動運転支援の有効性を確認するために行うもので、公道の電柱を活用した路車間通信の技術実証としては、全国で初めての取組みとなります。

具体的には、大津市内にある交差点周辺に設置されている電柱に情報通信機器^{※2}および情報掲示板を設置し、歩行者接近等の死角情報を掲示板に表示、または走行車^{※3}に送信することにより、運転者への安全運転支援の有効性を検証するものです。また、本実証は、将来の自動運転への活用を見据えたものであり、自動運転に必要となることが想定されている大容量データの路車間通信試験もあわせて実施します。

関西電力、パナソニック、ゼロ・サム、トヨタITCの4社は、本実証の結果も踏まえ、安全運転の支援、更には将来の自動運転社会到来に向けたさらなる技術実証を進めてまいります。

以 上

- ※1：各種走行支援のために道路に設置された通信設備と自動車との間で行われる双方向通信のことです。
- ※2：本実証では、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)における総務省委託研究開発「ICTを活用した次世代ITSの確立」の成果を活用しております。
- ※3：本実証では、掲示板表示情報等を活用し交通ルールに従った運転を行い、自動運転は行いません。

添付資料：自動運転社会を見据えた路車間通信に関する技術実証の実施について